

【基本施策の目的】

名鉄小牧駅沿線を中心に、より多くの市民が便利で快適に暮らせる生活空間を確保するとともに、名鉄小牧駅周辺におけるまちの魅力を向上します。

【基本施策の今後の優先度】

大 基本施策の指標値は横ばいであるものの、当該基本施策は、まちづくりの根幹となる施策が主であり、立地適正化計画に基づく施策や、新図書館建設地がA街区に決定し、かつ旧桃花台線の小牧駅舎等の撤去時期が迫ってきていることから、特に小牧駅周辺の基盤整備は喫緊の課題となっている。
 今後も積極的に市街地整備に取り組むため、同一分野内の他の基本施策との比較の結果、「大」と判断した。

【指標の分析と今後の対応】

指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	今後の対応
小牧駅周辺が便利と思う市民の割合	%	実績	32.3	30.1	29.3	32.4	小牧駅周辺地区は、他地区に比べ指標の実績値が高く増加傾向である。 引き続き、新図書館建設、ラピオ再構築及び小牧駅周辺整備の取り組みを進めることにより、さらに実績が増加することが期待できる。	指標の実績値は、高齢者に比べ若年世代の方が低くなっているため、若年世代に向けたまちの魅力を向上させる必要があると考える。 市民アンケート調査などにより、地区・年齢別に小牧駅周辺の利用状況や整備に関する考え方などを把握したため、それを踏まえて、関係機関との協議を行いながら、実施に向けた取り組みを進める。
		目指す方向性						
名鉄小牧線沿線居住率	%	実績	56.5	56.9	57.2	57.4	市全体の全世代人口は減少しているが、小牧線沿線地区の全世代人口は増加している。実績値である全世代の居住率は増加傾向にある。 また、市全体の若年世代(20～40歳代)人口の減少は顕著であるが、小牧線沿線地区の若年世代人口、居住率は増加している。(H26:59.9%、H27:60.1%、H28:60.5%) 名鉄小牧線沿線居住率が増加している主な要因は、名鉄小牧線沿線で行われている土地区画整理事業の進捗によるものと考えられる。 今後の事業進捗により、さらに居住率が増加することが期待できる。	施行中の土地区画整理事業については、引き続き、事業進捗を図る。 なお、新たな住居系土地区画整理事業の実施については、小牧市立地適正化計画や都市基盤整備の状況等を踏まえ、具体的な検討を行うため調査・測量等を行う。 また、若年世代の人口が急速に低下すると、まちの活力や賑わいが低下することが懸念されるため、庁内関係部署との連携を図り、若年世代が住みやすい住環境の創出、定住につながる仕組みづくりなどの施策を実施する必要がある。
		目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
小牧市の景観について、好ましいと思う市民の割合		%	実績	68.9	62.8	60.2	59.4	<p>指標の目指す方向性とは逆に推移している。基準値からの動向については全年代において下がっており、特に60歳未満の世代においては10ポイント以上下がっている。</p> <p>これらの世代が景観阻害要因と感じる内容については、ごみのポイ捨てなど環境的な要因を除くと、景観アンケート調査結果では、小牧駅周辺や旧桃花台線の景観が挙げられている。</p> <p>これらについては早急な対応が困難であることから、直近における指標は、H28年度と同程度あるいは下がる見通しである。</p> <p>しかし、今後小牧駅周辺において、旧桃花台線の撤去を含めた再整備が行われれば、指標の改善が見込まれる。</p>	小牧駅周辺再整備を進めるとともに、桃花台線インフラの撤去について、撤去の事業主体である愛知県に対し、引き続き全線にわたっての早期撤去を要望する。とりわけ、小牧駅周辺部のインフラ撤去については、本市の小牧駅周辺再整備の計画を踏まえ協議する。
			目指す方向性						
1 鉄道駅周辺の都市機能を強化します	名鉄小牧線の駅が利用しやすいと思う市民の割合	%	実績	42.7	45.7	43.8	44.1	<p>名鉄小牧線沿線地区は、他地区に比べ指標の実績値が高くなっているものの、減少傾向である地区もある。</p> <p>平成27年3月に味岡駅においてエレベーター設置等のバリアフリー工事が完了し、平成29年3月に田原駅前において駅前広場等の整備工事が完了した。</p> <p>今後、引き続き、小牧駅、小牧口駅の駅前広場整備などを実施することにより、利便性の向上が図られるため、実績が増加することが期待できる。</p>	引き続き、小牧駅、小牧口駅の駅前広場整備等の事業進捗を図る。
			目指す方向性						
	名鉄田原駅前・味岡・小牧・小牧口駅の年間乗降客数	人	実績	7,259,994	7,638,508	8,043,744	8,206,056	<p>実績が増加している主な要因は、名鉄小牧線沿線で行われている土地区画整理事業の進捗により、居住人口が増加したことによるものと考えられる。</p> <p>今後の事業進捗により、居住人口の増加が見込まれるとともに、利便性の向上が図られるため、さらに実績が増加することが期待できる。</p>	引き続き、土地区画整理事業の進捗を図る。
			目指す方向性						
2 良好な住宅地を創出します	土地区画整理事業の施行区域内の居住人口	人	実績	9,940	10,523	10,688	10,826	<p>平成27年度と比較して、道路等の公共施設の整備が進み、良好な住宅地を供給したことにより、順調に居住人口が増加している。</p>	良好な宅地を供給するため、引き続き道路等の公共施設整備を着実に進めていく必要がある。
			目指す方向性						

展開方向	指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因、今後の見通し(予測)	事務事業等の見直し内容
2 良好な住宅地を創出します	土地区画整理事業の施行区域内の道路整備率	%	実績	75.1	81.6	83.8	85.4	平成27年度と比較して、物件移転が進んだことにより、順調に道路整備率が上昇している。	補償交渉を推進し、引続き道路等の公共施設整備を着実に進めていく必要がある。
			目指す方向性						
3 都市景観を整えます	歴史的趣や緑豊かな小牧山が見える景観に魅力を感じる市民の割合	%	実績	79.2	78.8	77.6	75.9	<p>指標の目指す方向性とは逆に推移している。性別や世代別からも指標の推移に特別な偏りは見られず、全ての対象において微減となっている。</p> <p>近年、小牧山では旧庁舎の取り壊しや石垣の発掘作業等、景観面にとってマイナスの要因が続いていたことが方向性と逆に推移した要因のひとつと考えられる。</p> <p>しかし、市役所旧本庁舎跡地の整備が完了し、また、今後史跡センターの整備や周辺の管理道整備などが予定されていることから、今後は指標の改善が期待できる。</p>	<p>小牧山の景観阻害要因の一つが取り除かれ、さらに今後は新たな整備が予定されていることや小牧山周辺における電線類地中化の推進など、関係課と協力しながら、小牧山の魅力向上に努める。</p> <p>また、今年度見直しを進める「小牧市サイン計画」に基づく施設誘導サイン(小牧山をデザイン)について、平成23年以降休止している新たなサインの設置の再開を検討する。</p>
			目指す方向性						

経常事業	削減に関する具体的な考え方	展開方向 1	現状の取組を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向 2	現状の取組を引き続きしっかりと進めていく。
		展開方向 3	現状の事業を引き続きしっかりと進めていく。